

「甲子園で全て出し切る」

光星ナイン 本社訪れ活躍誓う



本社社員から花束を受け取る奥村幸太主将(手前)と仲井宗基監督
—28日、デーリー東北ホール

8月7日開幕の第98回全国高校野球選手権に出場する八光星ナインが28日、デーリー東北新聞社を訪れ、青森大会を振り返り、2年ぶりの8度目となる夏の甲子園での活躍を誓った。

本社を訪れたのは、仲井宗基監督、小坂貴志部長と奥村幸太主将ら青森大会でメンバー入りした20人、樺場保人校長、甲子園出場協賛会の安井基悦会長。デーリー東北ホールでは、多くの社員に迎えられ、祝福の花束を受けた。

青森大会では6試合で28盗塁と、走力を生かして勝ち上がった。仲井監督は「一番打者の伊藤優平を中心に足の速い選手が多かった。練習試合を重ねる中で戦い方を確立し、大会で選手たちがしっかり実践してくれた」と振り返った。甲子園に向けて奥村主将は「青森県の全てのチームの思いを背負って甲子園に行く。今まで積み上げてきたものを全て出し切りたい」と健闘を誓った。主戦の櫻井一樹は「甲子園まで短いけど、しっかり練習していい投球をしたい」と意気込んだ。

社員を代表し、阿部貞一

常務は「読者に明るい記事をお届けたい。活躍を伝えるスペースを空けて待っている」と激励した。

ナインらは同日、八戸市庁を訪れ、田名部政一副市長に青森大会優勝と甲子園出場を報告した。市庁別館には、ナインの活躍を祈る懸垂幕が掲げられた。
(林泰輔)